

(1) 政府は高額療養費の急増が医療保険を圧迫していると説くが、高額療養費は医療費総額の約6.7%にすぎない。

(2) 高市首相や上野厚労大臣は、今回の見直しは制度全体の持続可能性の確保と、長期療養者や低所得者へのセーフティネット機能の強化を図る観点から行うものと繰り返し答弁している。厚労省は、多数回該当の限度額維持や現役世代への年間上限額の新設、年収200万円未満の課税世帯への配慮をもって「セーフティネットを強化した」と強調しているが、新設される「年間上限」の対象者は約50万人と一部にとどまる。

その一方で「持続可能性を維持する」として、低所得者も含めてすべての所得区分で負担増を行い、年収650万～770万円の所得区分では現行の限度額8万100円から2年後には11万400円と約3万円(38%)も増加する。負担増となる制度利用者(年1～3回の制度利用者)は最大で約660万人と、全利用者(823万人※外来特例除く)の約8割に及ぶ。

厚労省の財政試算では給付削減額2990億円に対し、給付増額は540億円にとどまる。削減額が増額分より約5.5倍も多く、セーフティネットは「機能強化」どころか「弱体化」する。

(3) 患者負担の年間上限導入などで、年額負担は一定程度抑制される一方、月額負担は「破滅的医療支出」(生活費を差し引いた可処分所得の40%以上を医療費が占める場合)に該当する患者が増える。年間上限に到達する人はごく一部に過ぎず、実質的な負担増となる。高額療養費を利用する患者は所得が減る場合も多い。保団連の患者調査では、年収200万～1040万円のいずれの層でも、年収が減ったケースでは、収入が3割前後落ちている。

(3) 保険料の削減は現役世代の負担軽減を名目に進められているが、引き上げによる保険料軽減は月約117円とごく僅か。一方で重い病気になれば、世代に関わらず負担増になる。決して現役世代の負担軽減になるとは言えない。また、政府の見込む削減額のうち、1070億円は受診控えによるもの。上野大臣は、2026年3月10日の記者会見で「必要な受診が抑制されるということは想定していない」と受診抑制を否定している。その上で、26年27年の2年間で実効給付率(医療費総額のうち医療保険制度から支払われる割合)が0.28%低下すると見込んでおり、「実効給付率が変化した場合に経験的に得られている医療費の増減効果の算定式に機械的に数値を代入したところ、給付金の変化が約1070億円の減となっている」と給付費削減の理由を説明した。制度見直しに伴う受診行動の変化として1070億円の給付費削減を予算計上するのは架空計上とも言える。

実際、高額療養費の自己負担限度額の引き上げにより、治療が高額になり家計を圧迫すると、受診を諦める選択をすると言う患者も居る。患者が健康や命を諦めることを前提にした削減額を計上して健全と言えるのか。わずかな保険料軽減と引き換えに、患者の命・健康が犠牲になることは、到底容認できない。

(4) 患者団体は負担上限額の引き上げに同意していない。高額療養費の上限変更については 2024 年にも変更案が出されたが、一方的且つ拙速なやり方に対する患者らの反対の声を受け、2025 年 3 月に法案見送りとなった。本改正にあたり、「高額療養費制度の在り方に関する専門委員会」にて議論が行われたとのことだが、そこに患者らの意見は反映されているのか示されたい。

厚労省のホームページ上で確認できる「医療保険部会 高額療養費制度の在り方に関する専門委員会」の議事録最終更新日は第 9 回 2025 年 12 月 25 日となっており、社会保障推進会議患者ヒアリングは第 2 回 2025 年 6 月 30 日に開催された事実が確認できるのみである。患者団体へのヒアリングは、一度しか開かれていないということか。一年前に行った 1 時間 30 分の会議で十分なヒアリングがされていると言えるのか、意見を聞きたい。2026 年 3 月 25 日の参院予算委員会では、参考人として出席した全国がん患者団体連合会の事務局長より見直しの内容に納得していない考えが示されている。

法令を定める前に、治療に伴う収入減や、教育費の負担などを考慮した実態調査を行い、検証するべきだ。

(5) 本改定では 2 回に分けて高額療養費自己負担限度額を変更するとのこととそれぞれ別紙の表が用意されているが、現在(令和 8 年 7 月時点)の限度額一覧を提示していない。パブコメ募集上、必要な比較対象の提示が不足している。

(6) 「現在の限度額から著しく増加することがないように配慮」とあるが、所得によっては元の区分から多くの限度額上昇になっている。2026 年 7 月現在から 2027 年 8 月の負担上限額の引き上げ幅が、一般的な所得層で、月額約 3 万の増額となっている。

以上